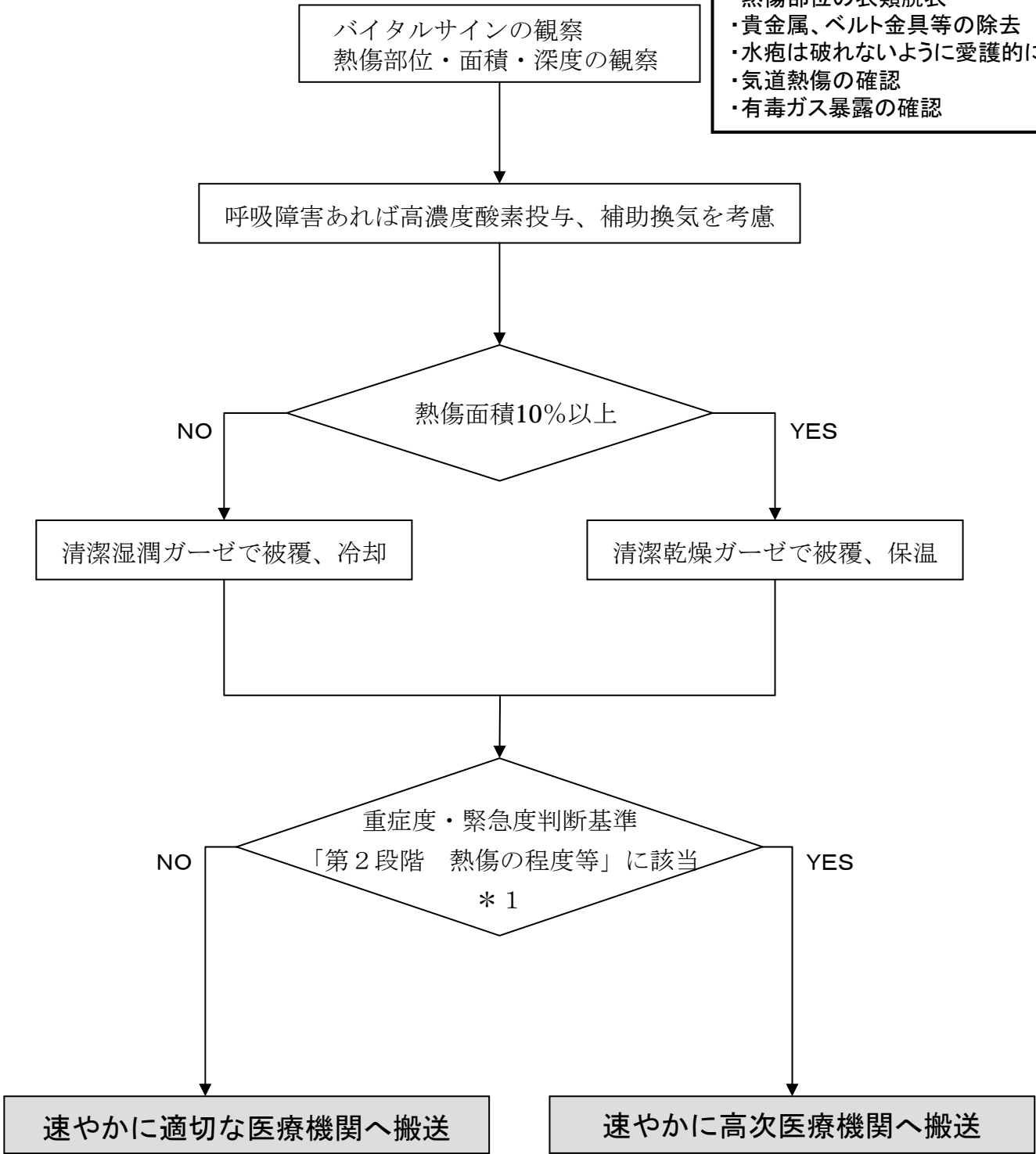


18 熱 傷

注

留意点

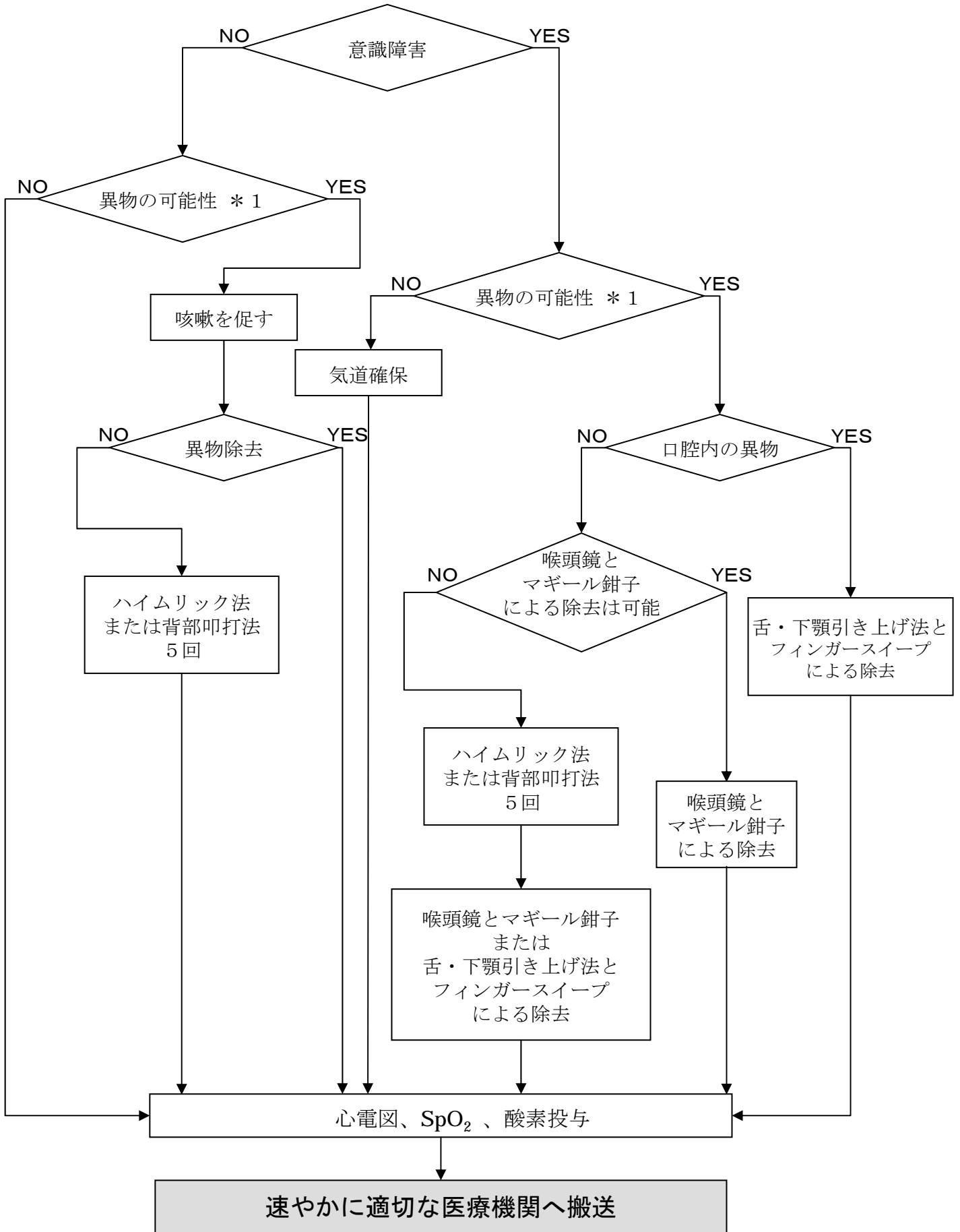
- ・熱傷部位の衣類脱衣
- ・貴金属、ベルト金具等の除去
- ・水疱は破れないように愛護的に
- ・気道熱傷の確認
- ・有毒ガス暴露の確認



*1 「第2段階 熱傷の程度等」に該当する場合は、重症以上と判断。

・ II度熱傷	20%以上	・ 気道熱傷
・ III度熱傷	10%以上	・ 顔、手、足、陰部、関節の熱傷
・ 化学熱傷		・ 他の外傷を合併する熱傷
・ 電撃傷		・ 小児 } II度熱傷 10%以上
		高年齢者 } III度熱傷 5%以上

19 気道閉塞、異物



* 1 発熱、発声異常はあるか。

20 中 毒

注

状況評価での注意点
・集団災害における安全確保
(風上からのアクセス等)
・中毒防御策
・中毒物質の確認と物証の発見

起因物質の判定
状況評価

バイタルサインの観察

- ・皮膚粘膜性状 (発汗、発赤、鮮紅色等)
- ・瞳孔所見 (散瞳、縮瞳)
- ・異常呼吸 (呼吸抑制、頻呼吸等)、呼吸音
- ・筋けいれん
- ・神経学的局在症状 (麻痺等)
- ・失禁: 便失禁、尿失禁
- ・吐物: 臭い、色
- ・呼気: 臭い
- ・心電図、SpO₂

中毒処置

- ・搬送体位 吸収性毒物 → 左側臥位
- ・ガス中毒 → 高濃度酸素投与
- ・他の処置 (必要があれば医師に連絡し、指導・助言を求める)
 - 皮膚・口腔粘膜 → 流水で洗浄
 - 酸・アルカリ製剤 → 牛乳または水200ml
 - 除草剤パラコート・ジクワット製剤 → 催吐

速やかに適切な医療機関へ搬送 * 1

* 1 急性一酸化炭素中毒は、高気圧酸素治療施設に搬送することが望ましい。

参考

酸素投与の適用と禁忌

- ・意識障害、呼吸困難、ショック症状 → 高濃度酸素
- ・急性一酸化炭素中毒 → 高濃度酸素
- ・パラコート・ジクワット中毒 → 高濃度酸素は禁忌

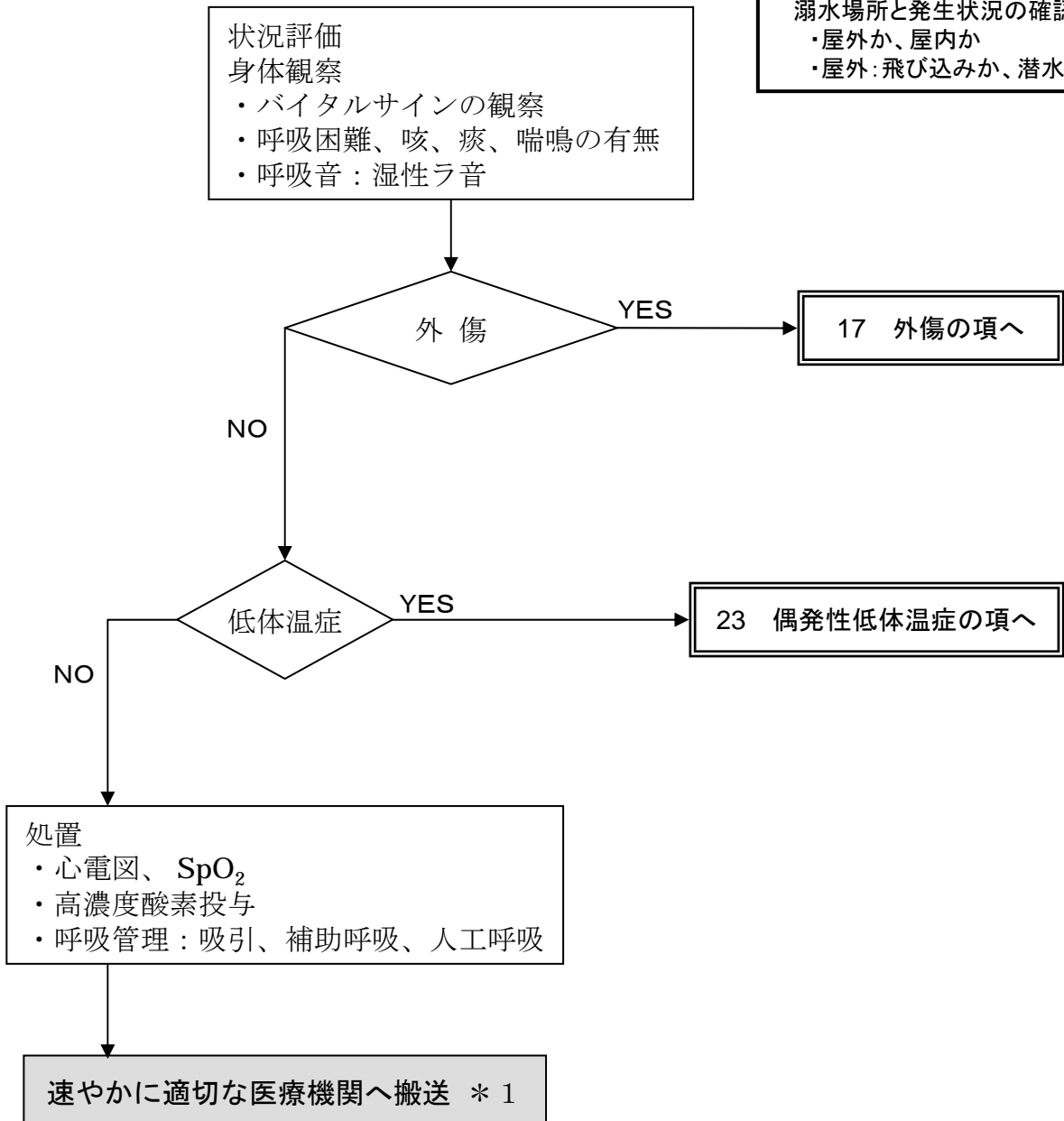
中毒症状・徴候が重要

- ・有機リン・カーバメイトは縮瞳・発汗・失禁・筋痙攣・刺激臭が特徴
- ・パラコート製剤は着色剤を含有しているため、嘔吐した際の液体や口腔内、口唇が青緑色を呈する
- ・急性一酸化炭素中毒は皮膚紅潮

21 溺 水

注

状況評価での注意点
溺水場所と発生状況の確認
・屋外か、屋内か
・屋外:飛び込みか、潜水中か



* 1 必要があれば医師に連絡し、指導・助言を求める。

参考

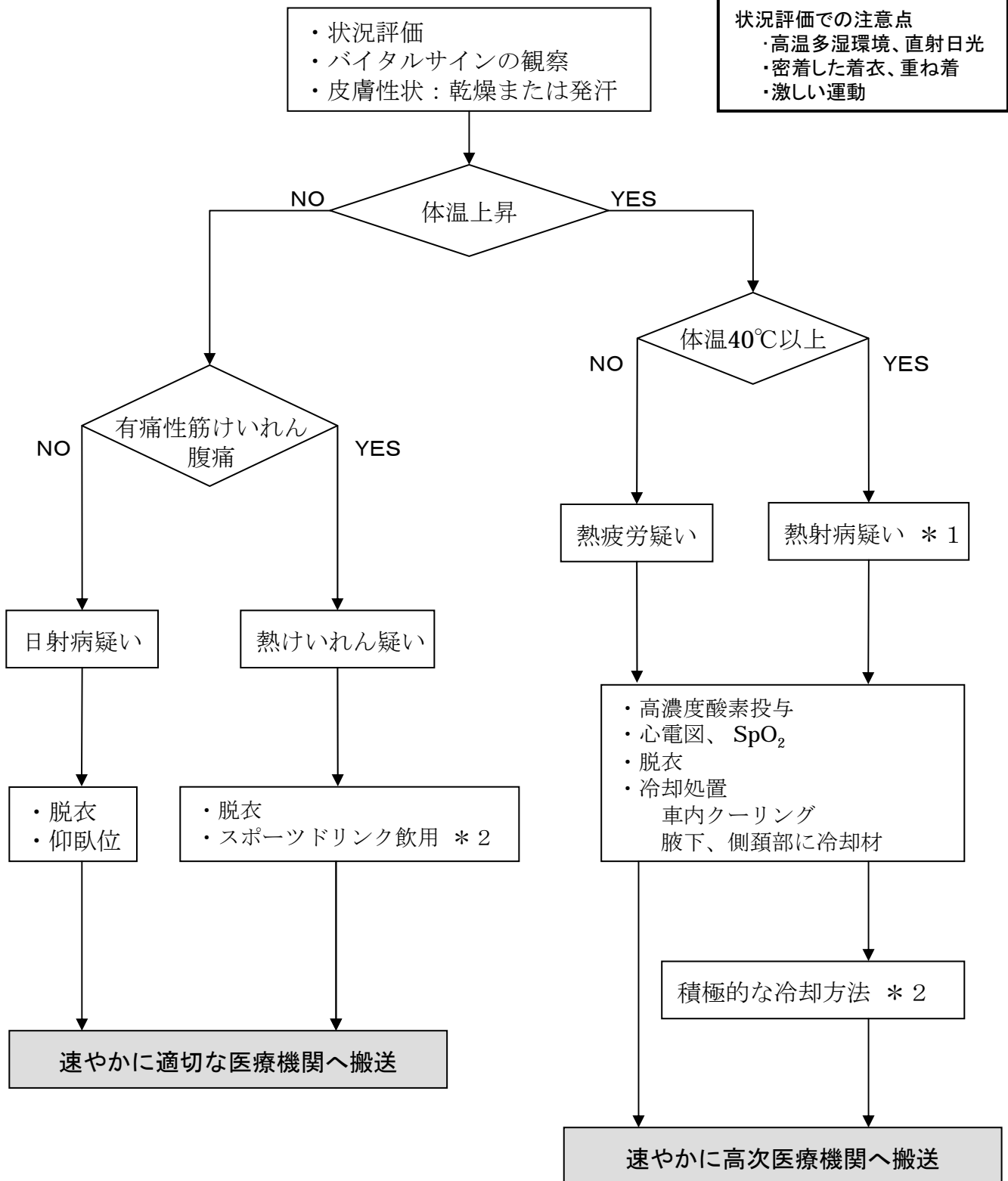
スキューバダイビング中の溺水の場合は、減圧障害の発生を疑う

- ・減圧障害の症候
CPA、呼吸困難、胸痛、咳、痰、喘鳴、湿性ラ音、意識障害、運動麻痺、感覚障害、筋痛、関節痛、めまい、耳鳴、悪心・嘔吐
- ・必須処置:高濃度酸素投与、心電図、SpO₂
- ・緊急再圧治療実施施設への搬送手段を検討
- ・高所移動禁忌(高度300メートル以下)

22 熱中症

注

状況評価での注意点
 ・高温多湿環境、直射日光
 ・密着した着衣、重ね着
 ・激しい運動

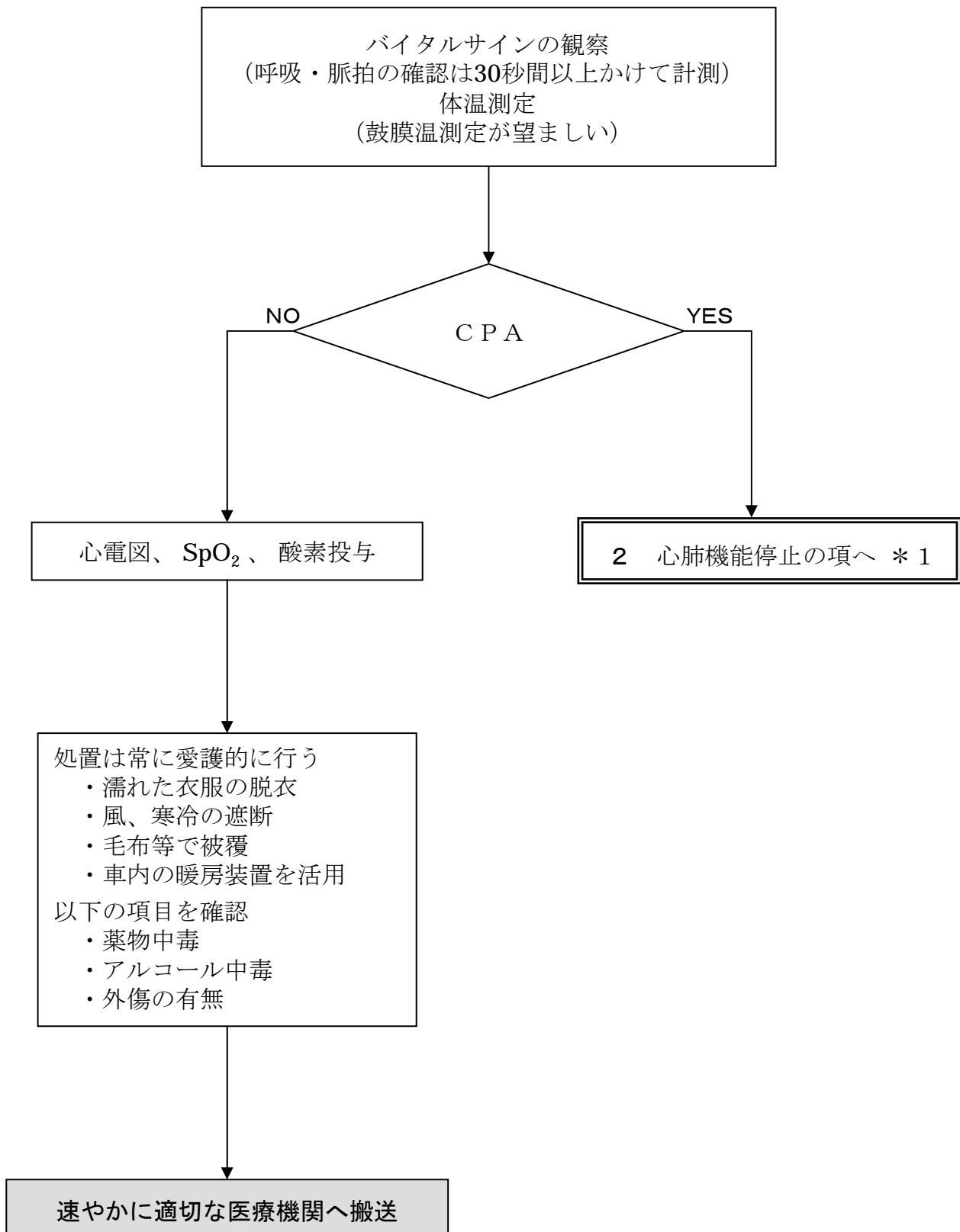


* 1 熱射病の随伴症状

・皮膚乾燥 ・意識障害 ・血圧低下 ・頻呼吸 ・頻脈

* 2 必要があれば医師に連絡し、指導・助言を求める。

23 偶発性低体温症



* 1 低体温症では特殊な場合があるため、医師に連絡し、指示・助言を求める。

24 在宅医療処置継続中の傷病者に対する処置

注

患者・家族へ確認すること
・病状変化時の対応
・連絡先、連絡方法
・支援体制

基礎疾患進行による病状悪化と合併症、
それとも治療・処置管理上のトラブル

- ・在宅中心静脈栄養管理中のもの
- ・在宅化学療法で点滴を行っているもの
- ・在宅酸素療法中のもの
- ・人工呼吸器使用中のもの
- ・在宅自己導尿管管理中のもの
- ・在宅自己腹膜灌流を施行中のもの
- ・その他

バイタルサイン、意識レベルの観察

安定

不安定

医師に連絡し、指導・助言を求める

速やかに適切な医療機関へ搬送

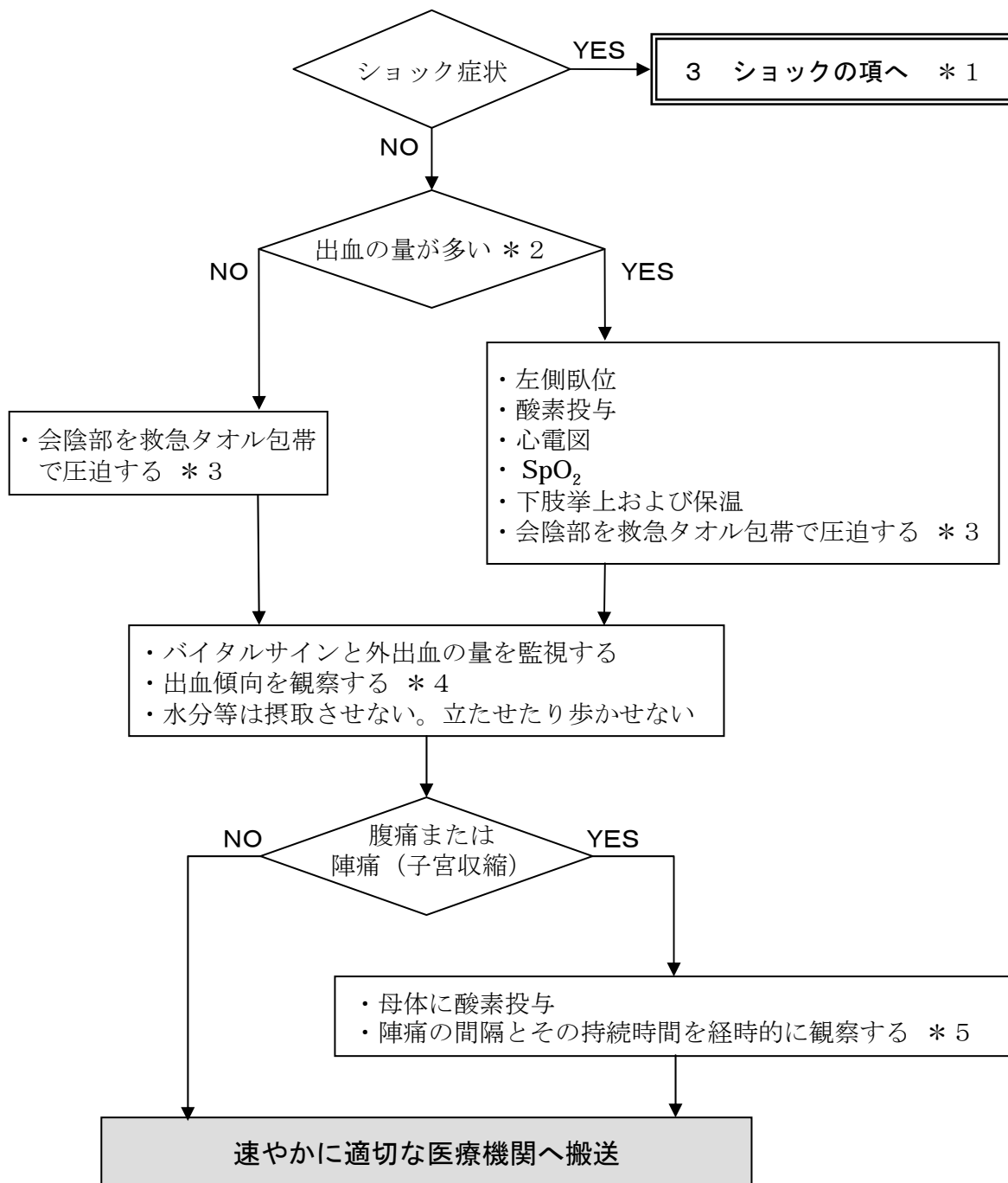
速やかに高次医療機関へ搬送

25-1 周産期

－ 性器出血 －

注

妊娠、分娩期における搬送では、原則として、妊娠後半期以降では左側臥位を保たせる。左側臥位が困難な場合、右腰背部にマット等を入れ、約30度程度の斜位を保つ。



* 1 出血を伴う場合は、本プロトコールを考慮すること。

* 2 出血の量が多いとは、肉眼的に明らかに多い出血、あるいは通常の月経時の出血より多い状態を指す。

* 3 患者自身で圧迫できる場合は患者が、できない場合は救急隊が行なう。

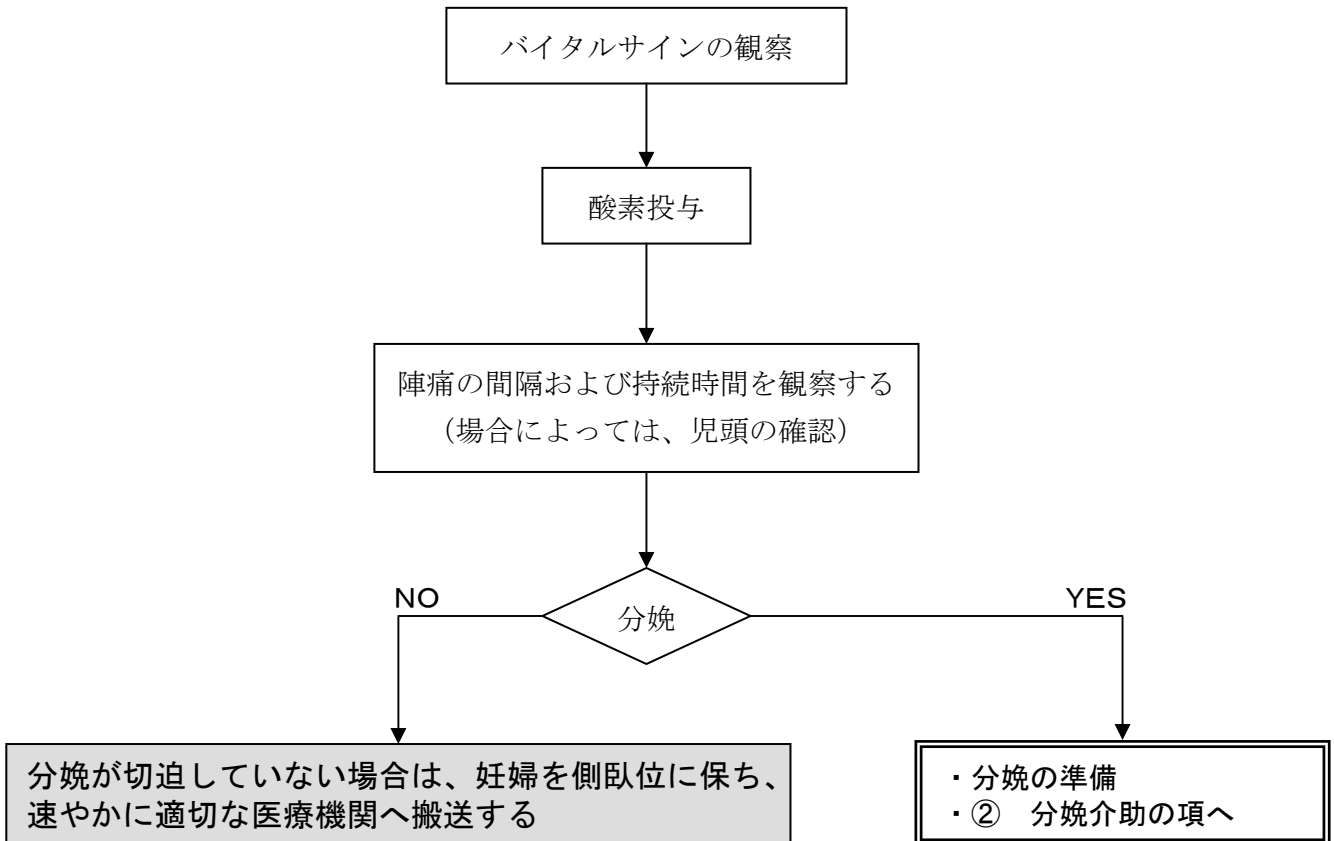
* 4 産科DIC（播種性血管内凝固症候群）の併発の有無：出血した血液が固まらない、血尿、皮下出血など。

* 5 激しい持続的な下腹部痛を認める場合には、高次医療機関あるいはそれに準ずる施設へ搬送。

25-2 周産期

－分娩－

① 分娩前の母体に対する処置



② 分娩介助

